

第4学年 算数科学習指導案

1. 日時：平成30年10月24日（水） 第5校時
2. 学年・組 第4学年1組
3. 場所 4年1組 教室
4. 単元名：およその数の表し方を考えよう
5. 単元目標：概数について理解し、目的に応じて、概数を用いたり四則計算の見積もりをしたりすることができる。
 - 概数を用いることのよさに気づき、生活や学習で概数や四則計算の見積もりを用いようとする。（関心・意欲・態度）
 - 概数を用いる場合や概数にする方法、概算の仕方について、その目的に応じて考え、判断することができる。（数学的な考え方）
 - 目的に応じた方法で、概数にしたり、四則計算を概数で見積もったりすることができる。（技能）
 - 概数の意味や概数にする方法、概算の仕方について理解する。（知識・理解）

6. 単元内容

●児童観

児童はこれまでに、わり算の学習で仮の商を立てる場面などでおよその数を用いてきている。そのため、感覚的におよその数を用いることはできる。また社会科の学習でもおよその人口や、川の長さなどを表し、およその数に触れる機会があった。

積極的に授業に参加し、考えることが出来る児童が多いものの、算数に苦手意識を持っている児童もいる。生活場面に即した具体例を用いたり、数直線を用いて視覚的に捉えられるようにするなど、苦手意識のある児童の関心を高められるような授業をしたい。

●単元観

本単元は、概数の意味を理解し、目的に応じて概数処理をしたり、概数を用いて計算の見積もりをしたりして、概数を用いることの良さに気づくことができるようにすることをねらいとしている。

概数を用いると大きさがとらえやすくなったり、物事の判断が容易になったり、見通しを立てやすくなったりする。これらのよさを味わわせることができるとともに、「以上」「未満」「以下」の意味の理解と使い方の定着を促すこともできる。また、生活場面との関連から数の実用性を実感することができる内容である。

●指導観

今までの学習から児童は、数値は、正確に求めたり、表したりするものと思っている。さらに、正確な数で表現することに慣れているため、およその数で表現することに抵抗のある児童も少なくない。

四捨五入を習得する場面では、四捨五入の手順を定着させるために、全員で順を追いながら問題を解かせ、その後 1 人で課題に取り組ませたい。また授業の定着を図るために、前時の復習を毎時間授業のはじめに行うことも徹底したい。

目的に応じた方法で概数にしたり、四則計算を概数で見積もる場面では、文意の理解を進めるために具体的場面や具体的条件を利用する。生活場面と関連させることで意欲を高められると考えた。概数を用いることのよさを体感できるような授業にしたい。

7. 単元の指導計画(全 9 時間)

次	時	目標 (◆) と主な学習活動 (○)	◎評価の観点
1	1	◆概数の意味について理解する。 ○正確な数とおよその数を比べ、数の表し方についての特徴に気づく。 ○数直線を使って、概数の表し方を考える。	◎概数の意味を理解している。
	2	◆四捨五入の意味とその方法を理解する。 ○数直線ではなく、数字だけを見て概数にする方法を考える。 ○四捨五入、切り捨て、切り上げの用語を知る。	◎四捨五入して概数にすることができる。 ◎四捨五入の意味とその方法を理解している。
	3	◆四捨五入して○の位までの概数にする方法を理解する。 ○一万の位までの概数にする場合、何の位で四捨五入すれば良いかを考える。	◎「○の位までの概数にする」時の四捨五入の仕方を理解している。
	4	◆四捨五入して上から○桁の概数にする方法を理解する。 ○一万の位までの概数と上から 1 桁の概数で表している 2 つの数字を比べて、違いを考える。 ○上から 1 桁の概数にする場合、どこで四捨五入すれば良いかを考える。	◎「上から○桁の概数にする」ときの四捨五入の仕方を理解している。
	5	◆概数の求め方を確認し、四捨五入の理解を確実にする。 ○上から 2 桁の概数で表す問題に取り組む。 ○一万の位までの概数にする問題に取り組む。 ○四捨五入して概数で表す場合、一つ下の位	◎四捨五入して概数にすることができる。

		に注目すればよいことに気づく。	
	6	<p>◆四捨五入によってある概数になる数の範囲や、「以上」「未満」「以下」の意味を理解する。</p> <p>○四捨五入する前の、もとの数の範囲を考える。</p> <p>○「以上」「未満」「以下」の用語を知る。</p>	<p>◎四捨五入して概数にする前の、もとの数の範囲を求めることができる。</p> <p>◎「以上」「未満」「以下」の意味を理解している。</p>
2	7	<p>◆目的に応じて、概数を用いた和や差の見積もりの仕方を理解する。</p> <p>○買い物をする場面から、目的に応じた代金の見積もり方を考える。</p> <p>○差を見積もる場合について考える。</p>	<p>◎目的に応じた和や差の見積もりの仕方を考え、説明している。</p> <p>◎概数を用いて和や差を見積もることができる。</p>
	8	<p>◆概数を用いた積や商の見積もりの仕方を理解する。</p> <p>○問題から式を立て、概数にして積を見積もる。</p> <p>○問題から式を立て、概数にして商を見積もる。</p>	<p>◎概数を用いた積や商の見積もりの仕方を考え、説明している。</p> <p>◎概数を用いて積や商を見積もることができる。</p>
3	9	<p>◆学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p>○しあげの問題に取り組む。</p>	◎基本的な学習内容を理解している。

8. 本時の学習

●目標

目的に応じて、概数を用いた和や差の見積もりの仕方を理解する。

●本時の展開

学習活動 (○)	指導上の留意点 (●) 評価 (◎)
<p>○目当てを書く。</p> <p>「見積もりの仕方を考えよう。」</p> <p>○お菓子を買う場面を見て、だいたいいくらか見積もる方法を考える。</p> <p>○文房具を買う場面を見て、1000円で足りるかどうかを見積もる方法を考える。</p>	<p>●実際の買い物場면을想起できるように児童に身近な例を提示する。</p> <p>●児童が興味を示すように掲示物を用いる。</p> <p>●見当を付けることを見積もるということを知らせる。</p>

○四捨五入の見積もりでは、実際には足りない例を見て、どうすれば確実に足りるように見積もれるかを考える。

○日用品を買う場面を見て、1000円以上買いたい場合の見積もりの仕方を考える。

○四捨五入の見積もりでは、実際には超えない例を見て、どうすれば確実に超えるように見積もれるかを考える。

○目的に応じて、見積もりの方法が違う事を理解する。

○概数にして、差を見積もる場合について考える。

○振り返りを書く。

●四捨五入以外に概数を求める方法があることに気が付けるような発問をする。

●三種類の概数を求める方法があり、目的に応じた見積もりの方法があることを確認する。

◎概数を用いるなど目的に応じた和や差の見積もりの仕方があることを理解している。
(ノート)